香川県農業試験場研究報告　第 21 号(1971 年 9 月)　 36-39

**温州ミカンの着果状態が果実の品質におよぼす影響**

原田豊・谷本十四春・松本武吉

１．35 年生普通温州(尾張系)1 樹に着果している 589 個の果実全部について,1 果ずつ果汁分析を行ない,着果の位置,方位,高さ,角度,結果枝の葉数,果実の大きさおよび着色程度と品質との関係を検討した。

２．樹冠の外周部の果実は,樹冠内部の果実に比べて，可溶性固形物含量が多く,クエン酸含量が少なかった。

３．枝に下向きについている果実は,上向きについている果実に比べて,可溶性固形物含量が多く,クエン酸含量が少なかった。

４．大きい果実は,小さい果実に比べて,明らかに可溶性固形物,クエン酸含量ともに少なかった。

５．果実の着色が良いほど可溶性固形物含量は多く，クエン酸含量は少なかった。

６．結果枝の葉数が多くなるほど,大きな果実になり，可溶性固形物含量,クエン酸含量ともに減少した。

７．着果位置が高いほど,可溶性固形物含量は多かった。

８．着果の方位と果実の品質との間にははっきりした関連性がみられなかった。

９．1 樹に着果している果実であっても,品質に大きな差異がみられるので,果汁分析用果実のサンプリングに当っては,一定条件のものを採取することにより,分析の精度を高めることが可能であることが判明した。また栽培管理は品質の果実間差異を小さくさせる方向に改善する必要がある。